

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会  
2020 年度事業計画

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2020 年度事業方針

2020 年度の事業計画について、COVID-19 拡大の影響により通常と異なる特別な対応をとらざるを得ない状況になっています。既にご案内の通り、10 月に北九州市での開催が予定されていた第 35 回リハ工学カンファレンスは 2021 年度への延期が決まり、福祉機器コンテスト 2020 は中止となりました。協会誌は、例年通り年 4 回発行する計画でありますが、8 月発行の Vol. 35 No. 3 は、特集内容の変更を余儀なくされています。例年、当協会のブースを出展していた第 47 回国際福祉機器展 (H. C. R. 2020) も中止となり、これまで後援・協賛していた各種イベントも多くが中止や延期となっています。

全国的な事業展開が難しい状況が続く中、分科会活動として、地域支部が積極的に活動を行えるよう、支援していく予定です。同様に、SIG 活動の活性化も図っていく予定です。2021 年度はじめから全 10 SIG が法人内 SIG となるよう各 SIG と協議・支援していく予定です。災害対策委員会では、災害対策を協会の事業とする方向で検討していただいています。法人化された日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT) については、当協会も加盟団体として、引き続き各種委員会に委員を派遣し、関連団体と協力しながら被災地の支援及び、今後起こりうる災害に対して平時活動を含めた支援活動を実施する予定です。

他団体との連携として、全国頸髄損傷者連絡会と共同で実態調査を行い、今年度はその中間報告を行うとともに、「頸損解体新書 2020」として年度中の発行を計画しています。

国際連携推進委員会では、国際法人化された GAATO の中央委員会のメンバーとして今後の国際連携活動をさらに推進していくとともに、アジアのリハ工学関連組織の連携団体である CREATE Asia (アジアリハ工学連携会議) にも委員を派遣し、アジアのリハ工学の発展にも協力していきたいと考えています。

COVID-19 に対応した「新しい生活様式」に即した形での、次年度以降の協会事業の在り方について、検討を進めていきたいと考えています。その第一歩として、Web 会議システムを導入し、理事会・各種委員会・支部/SIG 代表者会議などの開催を容易にするとともに、経費削減を図ってまいります。

「With コロナ」「Post コロナ」の時代の「新しい生活様式」が提唱されています。COVID-19 拡大の影響を受け、協会の主要事業の中止、延期、規模の縮小などを余儀なくされる中、当協会も「当事者の皆さんの新しい生活様式」のためのリハ工学・支援技術を考え、「新しい事業形態」を整えていく良い機会と捉えて、進めていきたいと思えます。引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

会長 桂 律也

## 1. 事業

### 1-1. リハ工学カンファレンス関連 (カンファレンス担当理事)

#### 1) 第 35 回リハ工学カンファレンス準備

第 35 回リハ工学カンファレンス in 北九州の開催準備を行う。

- ・会期：2021 年 9 月 24 日 (金) ~26 日 (日)
- ・会場：AIM ビル (アジア太平洋インポートマート) 3 階 (福岡県北九州市)
- ・大会テーマ：ライフスタイルの新陳代謝—多様性と持続可能性を意識して—
- ・大会長：繁成剛氏 (長野大学/一般社団法人日本リハビリテーション工学協会顧問)
- ・実行委員長：中村詩子氏 (北九州市立総合療育センター)

- 2) 第36回リハ工学カンファレンス準備  
第36回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。
- 3) カンファレンスの在り方検討
  - ・COVID-19 感染防止対策のためだけでなく、移動・参加が困難な会員も参加できるように参加・発表方法の見直しやオンライン参加を検討していく
  - ・参加者同士の質疑、議論、交流やディスカッションが安全で円滑、そして活発に行えるように検討を進める

## 1-2. 福祉機器コンテスト関連（コンテスト担当理事）

- 1) 福祉機器コンテスト2019
  - ・広報（予定）： バリアフリー2021（大阪）4月  
福祉機器コンテストの紹介および2019受賞作品のパネル展示やビラの配布等
- 2) 福祉機器コンテスト2020（※中止）
  - ・中止に伴う調整等
- 3) 福祉機器コンテスト2021
  - ・後援・協賛の依頼
  - ・コンテスト事務局の設置（期間2021年3月1日～2022年2月28日）
  - ・選考委員会の設置
  - ・募集対象：機器開発部門、学生部門
  - ・広報開始、応募要綱配布：4月中旬
  - ・募集期間：機器開発部門 5月～6月、学生部門 5月～7月
  - ・広報（予定）： H.C.R.2021（東京）展示会 9月  
バリアフリー2022（大阪）展示会 4月  
ウェルフェア2022（名古屋）展示会 5月
- 4) コンテスト発展のための取り組み
  - ・コンテストの企画内容及び運営方法を見直しする

## 1-3. 協会誌関連（協会誌担当理事）

- 1) 協会誌編集
  - ・年4回、協会誌の発行に合わせて会場の確保を行い、編集委員会を開催する
  - ・年2回を目標として、Web編集委員会を開催し、経費削減をはかる
  - ・随時、インターネット上にて編集作業の進捗状況について情報交換を行う
- 2) 協会誌発行  
以下の協会誌を発行予定
  - ・Vol. 35 No. 3 2020年8月 特集「なし（延期）」
  - ・Vol. 35 No. 4 2020年11月 特集「障害と働き方（仮）」
  - ・Vol. 36 No. 1 2021年2月 特集「新しいリハビリテーション領域と機器（治療機器・福祉用具）（仮）」
  - ・Vol. 36 No. 2 2021年5月 特集未定
- 3) 投稿論文（査読依頼）
  - ・協会誌投稿規定検討委員会は、投稿規定・編集委員会内規にかかる2019年度審議経過より2020年度における継続要否を検討する

- ・近年の投稿論文傾向と各 SIG を通じて査読依頼をするという査読内規が実情を反映していないこと、ならびに査読依頼の効率化と公正性を担保するため、査読委員会を独立設置する

#### 4) 協会誌の段階的電子化

- ・協会誌電子化登載作業のうち、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナル公開プラットフォームである J-STAGE への Web 上での登録作業を印刷元等へ委託する
- ・特集・連載等は認証制、論文等投稿記事はオープンアクセス化し、共に最新号より登載する
- ・報告記事は最新号より協会 HP 上にて公開する

### 1-4. 分科会・支部（分科会（支部・専門委員会）担当理事）

#### 1) 支部への活動支援

全国6支部が整備され、会員はいずれかの地域の支部に所属し、各地域でのリハ工学に関わる人的ネットワークを構築することができるようになった。そこで、協会誌やHPで全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図っているが、支部ごとで活動状況に差があるので、さらなる支部活動への支援を積極的に行う。また継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金の円滑な配分を行いたい。2020年度はWeb会議システムなどを活用し、各支部活動の活性化のための情報発信の簡便化や効率化などについて検討していく。

#### 2) 災害対策委員会の運営と大規模災害時の協会の対応

- ・2016年度に設置した「災害対策委員会」は2期4年が経過した。2020年度から3期目の期間延長を行い委員会の活動を継続して行うとともに、事業委員会（常設化）に向けて検討を行う
- ・JRAT加盟団体との協体制構築や被災地調査の実施、発災時を想定した当協会の被災地の支援体制の構築を検討していく
- ・災害対策委員会の実施する、被災地支援並びに災害対応等の活動資金については、企業から災害対策活動協賛金を募ることも検討する
- ・2020年度の主な活動は以下の通り
  - ・災害対策リハ工学セミナー等の企画・検討
  - ・これまでとこれからの大規模災害への対応
  - ・JRAT活動への参加と連携の仕方についての検討
  - ・障害を持つ人の防災マニュアル（仮称）の作成準備
  - ・一般社団法人日本車椅子シーティング協会（JAWS）、一般社団法人日本福祉用具生活支援用具協会（JASPA）、一般社団法人日本福祉用具評価センター（JASPEC）などの連携の窓口
  - ・その他、災害対策委員会が独自に必要と認めたこと

#### 3) 2020年度活動計画（期間：2020年7月～2021年6月）

- ・各支部の活動計画（案）を別紙に示す

### 1-5. 分科会・SIG（分科会（SIG）担当理事）

#### 1) SIG活動支援

・現在設立されている10SIGは、それぞれ主体的に活動内容を企画・実施しつつ、時に複数SIG間で協同の事業を行っている。主な関心領域やメンバーの専門領域、そして企画の進め方も異なる多様性に富んだ10グループの活動組織は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーである。これまでも当法人が企画・参画・運営する事業（講習会やコンテスト、協会誌の査読、リハ工学カンファレンスなど）実施に際して法人内SIG・協力SIGと協働しており、2020

年度以降も同様に協働しながら当法人の活動を活性化していきたい

- ・SIGの活動を支援するために2018年度より協会誌やHPへの情報掲載の運用について整理を行った。情報発信は重要であるとの認識から、今後も各SIGと情報交換しながら情報発信を進めていく
- ・現在、法人外SIG（協力SIG）とは2016年度に基本協力関係の覚書を締結し、協力関係を明確にしたが、各法人外SIGの活動が拡大する中で対外的に協会との関係性を整理する必要が出てきている。そこで2019年度のSIG代表者会議を受けて、全10SIGが法人内SIGとなるように各種条件の整理を行い、2021年度から法人外SIGの法人内SIGへの移行を順次進めていく為に定期的なWeb会議によるSIG代表者会議を行う

2020年度活動計画 期間：2020年7月～2021年6月 ※SIG会員数（協会員数）は2020年6月1日現在

<b>SIG 姿勢保持</b>	<a href="http://www.resja.or.jp/posi-sig/">http://www.resja.or.jp/posi-sig/</a>	会員数：138名（34名）
代表者：繁成剛（長野大学） 事務局長：児玉真一（横浜市総合リハビリテーションセンター）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会：COVID-19感染拡大防止対策として次年度に延期決定 会場：山西福祉記念会館（予定）</li> <li>・役員会の開催：開催予定 日程：2020年12月末 オンライン会議（予定）</li> <li>・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第2版）や資料集PDF版の販売</li> <li>・Webサイト運営、会員専用メールリストへの情報発信、リハ工学協会事業への協力</li> </ul>		
<b>車いすSIG</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/wc-sig/">https://www.resja.or.jp/wc-sig/</a>	会員数：96名（42名）
代表者：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 事務局長：深野栄子		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会開催：日時・場所 未定（関東の予定）</li> <li>・講習会50回達成記念功労者講演会（仮称）：2021年5月頃 場所は未定</li> <li>・Webサイト運営、テキスト発行、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他</li> </ul>		
<b>自助具SIG</b>		会員数：9名（9名）
代表者：岡田英志（ヒューマン） 事務局長：岡田英志（ヒューマン）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テクノエイド協会自助具データベースへの協力（3D自助具製作情報など）</li> <li>・貸出し用自助具箱の充実（ホームページでの貸出促進）</li> </ul>		
<b>乗り物SIG</b>	<a href="http://ameblo.jp/sunrisejp007/">http://ameblo.jp/sunrisejp007/</a>	会員数：5名（5名）
代表者：麩澤孝（有限会社セカンドステージ） 事務局長：片石 任（一般財団法人啓成会）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SIGブログの更新、充実、情報提供</li> <li>・分科会(BOG)活動、協会事業への協力</li> </ul>		
<b>SIG 褥そう防止装置</b>	<a href="http://www.resja.or.jp/sig-pmps/">http://www.resja.or.jp/sig-pmps/</a>	会員数：20名（20名）
代表者：新妻淳子（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）		
事務局長：河合俊宏（埼玉県総合リハビリテーションセンター）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新</li> <li>・日本褥瘡学会との連携</li> </ul>		
<b>コミュニケーションSIG</b>	<a href="http://www.resja.or.jp/com-sig/">http://www.resja.or.jp/com-sig/</a>	会員数：67名（20名）
代表者：渡辺崇史（日本福祉大学） 事務局長：上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションSIG講習会（勉強会）開催（時期未定）</li> <li>・コミュニケーション支援団体との協力活動</li> </ul>		
<b>SIG 住まいづくり</b>	<a href="http://www.resja.or.jp/sumai-sig/">http://www.resja.or.jp/sumai-sig/</a>	会員数：107名（60名）
代表者：橋本美芽（東京都立大学） 事務局長：鈴木基恵（横浜市総合リハビリテーションセンター）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会事業への協力</li> <li>・Webサイトリニューアル検討</li> </ul>		
<b>特別支援教育SIG</b>		会員数：5名（5名）
代表者：松田靖史（川村義肢株式会社） 事務局長：高原光恵（鳴門教育大学）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ工学協会事業への協力</li> <li>・特別支援関連情報Q&amp;A集の作成・配布</li> </ul>		
<b>移乗機器SIG</b>	<a href="http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html">http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html</a>	会員数：138名（23名）
代表者：古田恒輔（神戸学院大学） 事務局長：青木久美子（宇部記念病院訪問リハビリテーション）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会事業へ協力</li> <li>・ニュース発行</li> <li>・役員会の開催</li> </ul>		
<b>義肢装具SIG</b>	<a href="http://www.resja.or.jp/po-sig/">http://www.resja.or.jp/po-sig/</a>	会員数：105名（28名）
代表者：笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院） 事務局長：砂野義信		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会開催：今年度は開催いたしません</li> <li>・Webサイト運営</li> </ul>		

## 1-6. 企画推進事業（企画担当理事／事業統括理事）

協会の広報活動及び会員獲得に向けた PR 活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行う。

### 1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施する。その際には各地域の支部で運営するように体制整備を併せて行っていく。

- ・バリアフリー2021（2021年4月 於：インテックス大阪（大阪））
- ・その他各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う。各地域支部や SIG との協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

### 2) セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果の向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催していく。この企画・運営についても支部を中心に実施できるよう体制整備を行う。

- ・バリアフリー2021での出展社ワークショップを企画・開催
- ・その他の地域で開催される福祉機器展においても、支部・SIG等と協力してセミナーの開催を検討する

### 3) 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査2020の実施

- ・前回の頸損解体新書2010の発行よりも早く10年が経過する。その間、技術の進歩や環境、社会情勢の変化があった。このことから、全国頸髄損傷者連絡会と共同により、頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査を実施し、この10年間の変化を明らかにする
- ・本調査の結果は、2020年度に福祉用具の普及や開発の参考となる資料をまとめ頸損解体新書2020として発行する
- ・本調査の結果は、中間及び最終の報告会を実施して広く周知する

### 4) 合同シンポジウムの開催

- ・2020年度については、開催地域は未定だが、単独事業での実施だけでなく、カンファレンスや支部活動などの協会事業との連動や他団体も含めて検討する

### 5) 災害対策リハ工学セミナーの開催検討

- ・2020年度については、開催地域は未定だが、COVID-19拡大の状況を注視しながら開催方法、開催の可否を含めて検討する

### 6) 新たな会員獲得及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進

現在の事業の見直しと共に、新たな企画推進事業の検討と実施を行う。

- ・講習会、物販等の新たな企画推進事業の検討を行う
- ・実現可能性の高いと思われる事業について、試行的に実施する

対象者：専門職やリハ工学に興味のある方等

開催候補地：未定

### 7) 情報保障の拡充

障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する情報保障を実施する必要がある。当協会においても、主催セミナーやシンポジウム、支部事業、カンファレンス等において情報保障の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う。

## 1-7. 国際関連事業（国際担当理事）

### 1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・アジアリハ工学連携会議（CREATe Asia）、韓国リハビリテーション工学協会（RESKO）、台湾リハビリテーション工学協会（TREATS）等の主催する大会への RESJA 代表者の参加費負担
- ・GAATO への法人化登録料拠出金負担と年会費

### 2) 国際連携推進委員会の開催

- ・「理事会のもとに、協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、年に 2 回程度の開催を予定し、理事会の決定を補佐する」としていたが、AATPO（支援技術専門家組織連合）の大枠も決まり、一方で今後の見通しが不透明なことから、年に 1 回程度とする

## 2. 総務

### 2-1. 規則・選挙（規則・選挙担当理事）

#### 1) 2020 年度代議員・役員候補者選挙

2020 年度代議員・役員候補者選挙を行う。

#### 2) 規定の整備

各種規程を整備し、改定を必要に応じて行う。

### 2-2. 財務（財務担当理事）

#### 1) 法人会計の管理

- ・2019 年度決算報告（案）の作成
- ・2020 年度決算報告の準備
- ・2021 年度予算（案）の作成
- ・四半期決算の実施

#### 2) 分科会・支部の連結決算の準備

- ・現状の把握
- ・会計システムの構築

### 2-3. 総会・理事会

#### 1) 2020 年度理事会の開催

- ・年 5 回、定例の理事会を開催する
- ・開催予定の場所は新横浜、時期は 2020 年 7 月、10 月、12 月、2021 年 3 月、6 月とする
- ・COVID-19 感染防止対策および経費削減のため Web 会議システムでの理事会開催を検討する

#### 2) 2020 年度定時社員総会の開催

- ・2020 年 8 月、関西地区において定時社員総会を開催する

日時：2020 年 8 月 30 日（日） 13:30～14:30

場所：谷岡学園 梅田サテライトオフィス CURIO-CITY

（大阪市北区大深町 4 番 20 号 グランフロント大阪タワーA（南館）16 階）

### 2-4. 広報・渉外

#### 1) 協会リーフレット印刷

- ・協会案内用リーフレット印刷

2) 協会ホームページ用サーバー追加

- ・協会ホームページにおいて、各支部・各SIGの情報開示のために、サーバーの追加を行う

3) オンラインセミナー用サービスの利用

- ・COVID-19感染予防のため、集客による講習会の実施が出来ない状況の中、Web会議システムによる有償セミナーを企画し、実施するための環境を整える

## 2-5. 事務局（総務統括理事）

1) 事務局運営

- ・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める

2) 各事業における活動

- ・展示会出展における広報活動

## 3. 後援・協賛事業

- ・後援・協賛予定事業（主催団体と内容）は下記の通りである

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	公益社団法人日本理学療法士協会	2020年5月23日～24日 →1年程度延期	第55回日本理学療法学会学術研修大会 2020inおおいた
2	後援	第2回福祉用具専門相談員研究大会	2020年6月16日 →1年程度延期	第2回福祉用具専門相談員研究大会
3	後援	一般社団法人日本機械学会、 一般社団法人ライフサポート学会、 一般社団法人日本生活支援工学会	2020年9月2日～4日 →1年程度延期	LIFE2020
4	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2020年9月2日～4日 →中止	ヒューマンインタフェースシンポジウム2020
5	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2020年9月25日～27日	第54回日本作業療法学会
6	協賛	バイオメカニズム学会	2020年12月5日～6日	第41回バイオメカニズム学術講演会
7	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2020年12月16日～18日	第21回SICEシステムインテグレーション部門講演会 (オンライン開催)

【別紙】

◆支部の2020年度活動計画◆

◇東日本支部

1. 概要

今年度は、早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。東日本支部は、広域であり、会議・セミナー・勉強会などについては、Web 会議システムなどを活用したいと考えている。東日本大震災などの災害の経験を活かして、地域 JRAT と支部の協力体制を構築していきたい。

◇関東・甲信越支部

1. 概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

- 1) 災害対策キャンプの企画・運営：2020 年秋または2021 年春予定

場所：未定

内容：災害時、避難先での寝泊まりを想定した機器の利用検証

3. その他

- 1) 支部役員会の開催：未定

- 2) 支部運営方法に関する検討：・Dropbox Paper、・Facebook、・Chatwork

4. 2020 年度支部役員体制

代表：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター：継続）

幹事：水澤二郎、西村 颯、深野栄子、麩澤 孝、植田瑞昌、片石 任、河合俊宏、白鳥智子、鈴木明子、岡野善記、石濱裕規、森田千晶

事務局：神奈川県リハビリテーション病院研究部内 村田知之

◇中部支部

1. 概要

年間2回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

2. 主要事業

- 1) 支部セミナーの開催（年間2回程度）

福祉用具開発メーカー、福祉用具の評価・普及に関する施設や研究期間(大学も含む)等の見学および意見交換会の実施

開催日：未定 ※開催時期や開催方法については、COVID-19 対応への状況を見て検討する

3. その他

- 1) 支部役員会の開催

未定：随時検討する

4. 2020 年度支部役員体制

代表：渡辺崇史（日本福祉大学）

幹事：北野義明（石川県リハビリテーションセンター）



事務局：日本福祉大学日本福祉テクノロジーセンター  
※事務局および幹事は随時追加・更新をする予定である

## ◇関西支部

### 1. 概要

年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。全国頸髄損傷者連絡会と共同で行っている実態調査の報告をまとめる。さらに、関係諸活動の後援など、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図るが、COVID-19 拡大の影響を注視しながら、オンラインセミナーなど実施可能な方法を検討する。

### 2. 主要事業

#### 1) 2020 年度定時社員総会の開催支援

当初の東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催及び COVID-19 拡大の影響から、2020 年度定時社員総会を関西で行うことになった。今後も感染拡大の影響を注視しながら、総会開催の本部支援を行う。  
開催日：2020 年 8 月 30 日（日）

#### 2) リハ工学協会のセミナー開催協力：2020 年 9 月ごろ予定

頸損実態調査 2020 から見えてくるもの（中間報告会）の開催  
場所：神戸とオンラインセミナーを併用する予定  
講師：調査関係者や頸髄損傷者（未定）

協会事業が全国頸髄損傷者連絡会に協力して実施している頸損実態調査 2020 の報告会（中間報告会）の開催協力を行う。

#### 3) リハ工学協会のセミナーの開催協力

頸損実態調査 2020 から見えてくるもの（最終報告会）の開催  
開催日：2021 年 3 月～5 月ごろ予定  
場所：大阪、神戸、もしくはオンライン  
講師：調査関係者や頸髄損傷者（未定）

リハ工学協会が全国頸髄損傷者連絡会に協力して実施している頸損実態調査 2020 の報告会（最終報告会）開催協力を行う。

#### 4) バリアフリー2021 運営および出展社セミナーの開催支援

バリアフリー2021 の協会ブース及び出展社セミナーの開催支援  
開催日：2021 年 4 月 22 日（木）～24 日（土）  
場所：インテックス大阪  
テーマ：頸損実態調査 2020 報告会（予定）

### 3. 他学会等の事業への後援・協賛・協力

今のところ予定なし

### 4. その他

#### 1) 支部役員会の開催

日時：未定  
場所：大阪、神戸、および Web 会議も検討  
内容：2020 年度の事業報告・決算報告、2021 年度の事業計画案・収支予算案について  
支部セミナー等の企画検討など

### 5. 2020 年度支部役員体制

代表：相良二郎（神戸芸術工科大学：継続）

幹事：赤澤康史、川村 慶、金井謙介、剣持 悟、島本 卓、杉本昌子、中村俊哉、松田靖史、宮野秀樹

事務局：糟谷佐紀（神戸学院大学）

## ◇中国・四国支部

### 1. 概要

支部圏域が広く、ミーティングを持つことそのものが厳しく、LINE などを用いて種々、事業の打ち合わせを図ってきた。

4月に合同シンポジウムを実施したことで、そのテーマを中四国で普及をしていきたいと主要事業とした。

### 2. 主要事業

中国（岡山を検討中）において、「障害当事者が変える人手不足の介護現場」をテーマとしたシンポジウムを実施検討中。いずれにおいても、いろいろなイベントなどとコラボさせてもらいそこで発信することで費用もかからない方法で実施を検討中。

※開催場所や日時は、COVID-19 拡大に伴う社会の状況を見て検討する予定

※バリアフリー大阪と高知ふくし機器展で、シンポジウムを実施予定であったが、いずれも展示会そのものが中止となった

### 3. その他

支部役員会は、現状通り、LINE で実施。オンラインミーティングも検討。

### 4. 2020 年度支部役員体制

代表：下元佳子（一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク）

幹事：鈴木太（リハ工学協会理事 愛媛頸髄損傷者連絡会）、谷口公友（広島国際大学）

事務局：一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク

## ◇九州支部

### 1. 概要

年間1回程度支部交流会（オフラインミーティング）を主催し、リハビリテーション工学及び福祉用具に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

### 2. 主要事業

#### 1) 支部交流会の開催（年間1回程度）

九州支部オフラインミーティング

開催日：2020年11月19日 10:00～17:00（予定）

場 所：西日本総合展示場 新館（北九州市小倉北区浅野3-8-1）

※第22回西日本国際福祉機器展において、展示ブースを巡りながら出展社および来場者（リハ工学協会会員も含む）とディスカッションする

### 3. その他

#### 1) 支部役員会の開催

役員会は適宜、メールリストやWeb会議システムを活用し、電磁的に行う。

### 4. 2020 年度支部役員体制

代 表：小林博光（総合せき損センター：継続）

スタッフ：岩崎満男、江原喜人、中村詩子、山形茂生